

「永山まちづくり推進協議会」会議録（令和7年度第3回）

○日時 令和8年3月12日（木） 午後6時00分～午後7時10分

○場所 永山公民館 2階 講堂

○出席者 ・委員12名（50音順） （欠席者5名）

入谷委員、上野委員、葛西委員、北村委員、工藤委員、桑島委員、  
島田委員、高橋委員、土田委員、豊島委員、幅崎委員、村井委員

・アドバイザー4名

旭川市教育委員会3名

社会福祉法人旭川市社会福祉協議会1名

・事務局職員4名

永山支所長、同副支所長、同市民係員、永山公民館長

・防災安全部防災課職員1名

○会議の公開・非公開 公開

傍聴者2名

○会議資料

・会議次第

・永山まちづくり実行委員会の事業報告及び決算

・令和8年度地域活動計画（案）

※当会議録中では、次のとおり表記する。

・永山まちづくり推進協議会を「協議会」という。

1 開会

2 会長挨拶

会長から開催の挨拶を行った。

3 説明（防災安全部防災課）

近年の気候変動により、従来想定されていなかった中小河川等での浸水被害が増加していることから、中小河川の洪水浸水想定区域を反映した洪水ハザードマップと、下水道などから水があふれる内水氾濫の浸水想定区域図を掲載した内水ハザードマップ、災害全般の発生時に役立つ情報をまとめた「旭川市防災これ一冊まとまっぷ」を作成しました。旭川市ホームページへの掲載のほか、公開型GISを活用し、自由に必要な場所を検索できるようになっています。

3月中には全世帯への配布が完了する予定です。

#### 4 議事

(1) 永山まちづくり実行委員会の事業執行状況

(2) 令和8年度地域活動計画(案)

会長が議事進行を行った。委員や事務局の主な発言は次のとおり。

事務局から資料の説明を行ったあと、(1)及び、(2)について、それぞれの活動状況説明や、今後の見通し等について発言を求めた。

(事務局)

令和8年度地域活動計画案では、2事業減じて7事業となり、配分予算は31万4千円ですが、永山まちづくり事業の予算は38万4千円であり、7万円の余裕があるため、この後皆様からのアイデアをいただきたいと考えております。

(委員)

地域のオタスケマン事業は、昨年10月30日に永山西小学校において、市民委員会会長、防犯部長、交通安全部長の3名で3年生児童62人に対し、1時間の授業を行いました。児童からの質問に答える形で進行し、なぜボランティアが必要か、町内会の役割についてお話ししました。児童からは、関心の言葉も出ており、目的が果たせたのではと思っています。今まで15年間に渡り、この授業を行ってきましたが、将来この子どもたちが大きくなっても、それぞれの地域でボランティア活動や町内会に加入してほしいと願っています。

今後は、こういう事業を永山地域全域の小学校や中学校でも実施していきたいと考えています。

(委員)

永山屯田まつり舞踊パレード交流活動事業について説明いたします。

今年度は旭川市立大学地域連携研究センターなどの関係者と何度も打ち合わせをして、全学部の学生の有志を募るという形で実施となりました。舞踊パレード本番には、学生24名、職員の方が14名も参加していただいたことは、大変ありがたいと思います。そもそもこの事業が始まったのは、担い手不足があります。参加してくれた子どもたちが将来の担い手になってもらえるような、そんな地域にしていきたいと思っています。大学の皆様には、試験の直前という大変な時期に積極的な御協力をいただき大変感謝しています。

市民委員会でも大学祭への支援ができないか相談しているところです。

(事務局)

永山まちづくり実行委員会の各活動をまとめた永山まちづくりニュースは、3月末に発行を予定しています。配布は4月以降となりますが、市内各施設への設置や地域の活動実績を伝えるパネル展などに配置して、協議会の活動を周知していきたいと考えております。

(事務局)

永山地区子どもの学習支援事業については、実行委員である旭川市立大学の学生ボランティアサークルGlowUPが、学習を行っている児童生徒の見守りや、求めに応じた予習復習、宿題の支援を行いました。ボランティアの学生は、学業や試験など忙しい中協力していただき、大変有意義な事業であったと感じています。令和8年度も引き続き、旭川市立大学の学生の皆さんと連携しながらこの事業を進めてまいります。

(委員)

スープの冷めない“きずな”づくりは、永山の農業者と旭川市立大学短期大学の先生や学生が調理した、永山産野菜のスープと新米のおにぎりを各地域の住民にお渡しして交流を図る事業です。今年度も3回、5町内会に実施しました。実施地域は、実行委員会を選定し、町内会等の役員と打ち合わせしてスケジュール調整や対象者を決定していますので、高齢者のみでなく全世帯を対象とすることもあります。今年度は面談シートを作成し、訪問した大学生が困りごとなどの聞き取りをした結果、悩みや困りごとがある方を支援につなげることができました。また、訪問は旭川市立大学短期大学部学生のほか、福祉コミュニティ学科の学生も参加しており、違った視点を学べるという効果もありました。

食材費等の高騰と、事業のゴールをどこに定めるかが今後の課題になると感じています。

(委員)

中学生と高齢者の合同演奏会事業についてですが、全国放送され、有名となった永山中学校吹奏楽部の生徒とデイサービスを利用する高齢者の演奏会を実施しました。当日は250名ほどの方々が来場しました。素晴らしい演奏を聴くことができましたし、会場の観客と一つになった演奏会となったことは大きな成果とっております。永山は音楽に力を入れている地域でもありますので、良い事業であったと感じています。

(委員)

永山健康マイレージ事業は、過去の栄養調査や、オーラルフレイル調査から、介護予防には口腔の健康と栄養の大切さを知ってもらうことが大事であるということを周知するため企画しました。

調理実習と口腔の健康セミナーを組み合わせた講座や、10食品群チェックと歯科受診をして応募した方に商品をお渡しするなどを実施しました。こうしたことを何年か繰り返す中で、10食品群チェックを習慣化された方もおられました。オーラルフレイルについては課題も残るのですが、新規に5名が歯科受診につながったので成果があったと思っております。

また、旭川市立大学の学生が、レトルト食品や様々な食材で作れるお料理のレシピをスーパーマーケットに置かせていただいたところ、皆さんが持ち帰られました。学生は、地域へ働きかける方法を学んだのではと思いますので、継続する必要性を伝えていきたいです。

(委員)

永山南きづな・ほのぼのバザーは、100名以上の方がお越しいただいたと思います。認知症当事者や障がい者の方々が、地域で活躍し、社会につながることを目的に事業を実施しました。地域企業の方々からも商品を持ってきていただいたほか、手作り作品などの販売、赤い羽根共同募金への呼びかけを当事者の方々にしていただきました。施設に入居している方もおられたのですが、自分の作品を販売して、売り上げをお給料としてお渡ししたところ、こういった機会はなかなかないので嬉しいと喜ばれていました。こういった体験を通じて、共生型の社会を作っていきたいです。

(委員)

永山魅力発見隊事業は、まだまだ永山の魅力を知らない子どもたちにいろいろな体験をしていただいて、永山や旭川をよく知ってもらいたいということで活動しています。3回目となる今回は、木のまち旭川ということで、旭川産の家具とクラフトをもっと知っていただこうと企画しました。

まず、旭川デザインセンターの職員から旭川家具についていろいろと話をいただきました。クイズ形式で子どもたちと一緒に参加した親御さんにも、旭川家具がどのくらい売れているのか、どのように作られているかを知っていただきました。その後、旭川産の材料を使った手作りスプーンをみんなで作り、その後、旭川農業高校の生徒たちに手伝っていただきながら、サツマイモムースタルトを作りました。

実は永山はサツマイモをたくさん作っているのですが、そのサツマイモをもっと食べて知ってもらおうということも目的になっています。

最後は、自分たちで作った木のスプーンで、ムースタルトを食べるという締めになりまして、子どもたちも非常に盛り上がりました。

旭川農業高校は施設も整っているのですが、子どもたちにも地元素敵な高校があることも知ってもらえたと思っています。

(アドバイザー)

地元にすごい施設があるということを皆さん知らないのかなと思います。

デザインセンターには体験 LABO があって、そこでクラフト体験ができたり、5月20日には「ミートアップファニチャー旭川」というイベントがあって、クラフトのほか旭川家具にも触れられる機会なので是非参加していただきたい。

(会長)

皆さん、近況報告やお知らせ、新たな取り組みなどあればお話しいたきたい。

(委員)

他の地区の市民委員会の方から、「永山は大学まで揃っていていいね」と言われます。市民委員会や町内会の加入者減少、役員の担い手不足について、旭川市立大学も事例紹介など、力を入れていただいている。これについても何かできればいいと思っています。

(委員)

家具のまち旭川と言え、月に1回町内会で麻雀をやっているのだが、正座が大変ということで、町内の方に椅子に腰かけて使える特製の麻雀卓を制作してもらった。町内の温泉旅行に特製麻雀台を持ち込んだところ、評判が良くて、ホテルの方から注文をいただいたということもありました。脚が取り外しでき、飲み物も置ける台なので、旭川市のふるさと納税の返礼品にしてはどうかとお話したことがありました。

(委員)

永山は音楽のまちでもあると思う。毎年永山中学校で開催されている「白鳥コンサート」では素晴らしい演奏で有意義な時間を過ごすことができた。生徒たちもたくさんの人に演奏を聴いてほしいという気持ちがあると思う。そういった機会を設けていきたいです。

(委員)

市民委員会では、12月に子どもたちを集めてクリスマスお楽しみ会を、年末は防犯パトロールの巡回、1月には除雪パトロールを開催し、2月には30周年記念事業として歯の健康と体組成測定を行いました。また、3月には東日本大震災から15年ということで、南きづな連絡協議会主催の「女川いのちの石碑」についての講演開催に協力いたしました。

私どもの地区でも3月で1町内会が退会することになり、説得もしたのですが、担い手がおらず成立しない、協力を得られないということが多く、問題になっています。

(委員)

令和7年は一般住宅やアパートの火災はなかったのですが、今年になって2月と3月に火災が発生しています。現場の高齢化が課題となっています。

(委員)

個人の事業者が非常に多く、商店等は大変厳しいような状況ですが、永山地区には食事の店などたくさんありますので、これからの送迎会などで地元のお店を利用していただければと思います。

(アドバイザー)

先ほどお話のあった「白鳥コンサート」に関連して、お話します。子どもの数が少なくなってきた、吹奏楽をやっている学校が少なくなっている。ただ、永山中学校、永山南中学校はテレビの全国放送で有名になりましたので、今後吹奏楽をやりたい子どもたちが増えていくのではと考えています。ぜひ、演奏する機会を設けていただけると幸いです。

(アドバイザー)

スープの冷めない“きずな”づくり事業に参加して、学生と一緒に各お宅を訪問しました。このことが、コミュニティ福祉学科の学生さんの人材育成や経験になるのではと感じました。また、実施地域は町内会活動があまり活発でない地域を選定し、この事業を通じて少しでも地域やボランティアに興味を持ってもらえたらという視点もあります。次年度以降も参加させていただきたいと思います。

(会長)

永山地域の活性化のため、地域活動計画についてご意見等があれば、3月中に事務局へ連絡願います。

(3) その他

提案や意見はなかった。

5 閉会

副会長から閉会の挨拶があった。